

# 第58次南極地域観測隊(JARE58)

## 国際連携及び教員派遣

### AFoPS サイエンスチームの南極派遣

- アジア極地科学フォーラム (AFoPS) と連携し、南極観測未参加国であるモンゴル、インドネシア、タイの若手研究者を第58次隊に受け入れ、日本人研究者とともに東南極リュツォ・ホルム湾およびエンダビーランドでの地質調査を行う。
- それぞれの国で南極観測を担う中核的人材育成と、アジア地域での日本の南極観測のプレゼンス向上が主な目的である。



乗鞍高原での冬期訓練に参加したモンゴルとインドネシア研究者 (右の2人)。

### 公開利用研究：現場主義の南極条約体制：科学と国際法のインターフェース

- 日本の南極観測史上、初めてとなる社会科学の研究テーマである。これまで南極条約協議国会議で話題になっている、バイプロスペクティングや鉱物資源調査と科学調査の区別などを南極の現場で検証する。

## 教員南極派遣プログラム

### 57次隊での実施例

昭和基地



国内



- 極地の科学や観測に興味を持つ教員を昭和基地に派遣し、衛星回線によるTV会議システム等を利用して、現地から、派遣教員が企画する授業を行うプログラムである。
- このプログラムは文部科学省と連携して実施するもので、派遣教員の方には、この「南極授業」や帰国後の活動を通して、国内の小・中・高校の生徒や一般国民に向けての、南極に関する理解向上につながる様々な情報発信をして、そのための知識習得、及び自己研鑽をすることも期待している。

### 第58次隊南極授業 (予定)

2017年2月 7日 (火)	宮城県気仙沼市立階上中学校
2月 9日 (木)	奈良県立青翔中学校・高等学校
2月10日 (金)	宮城教育大学附属中学校
2月11日 (土)	奈良県立青翔中学校・高等学校